

各位



当金庫の2023年度決算の概要等について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜わり、厚くお礼申し上げます。

標記の件につきまして、下記のとおり、お知らせいたします。 敬 具

記

1. 2023年度（第80期）決算の概要

(1) 収益等の状況

(単位：百万円、%、ポイント)

	2022年度	2023年度	前期比増減
経常収益	4,150	4,568	417
経常費用	3,646	3,721	75
経常利益	504	847	342
当期純利益	427	660	233
実質業務純益	524	517	△7
コア業務純益	806	856	49
自己資本比率	9.55	9.79	0.24

経常収益は、貸出金の増加や有価証券における配当金増加を主因とした資金運用収益の増加に加え、投資信託や株式の売却益および不良債権の回収による取立益を計上したことから、前期比4億17百万円増加（同比10.06%）の45億68百万円となりました。

経常費用は、資金調達費用や経費、貸倒引当金繰入額が減少したものの、保有する投資信託や国債の売却損を計上したことから、前期比75百万円増加（同比+2.05%）の37億21百万円となりました。

その結果、経常利益は、前期比3億42百万円増加（同比+67.89%）の8億47百万円となり、当期純利益は、固定資産の減損損失計上があったものの、前期比2億33百万円増加（同比+54.65%）の6億60百万円となりました。

なお、本業の儲けを示すコア業務純益は、前期比49百万円増加（同比+6.16%）の8億56百万円となり、4期連続の増加となりました。実質業務純益は、保有する投資信託や国債の売却損を計上した影響により、前期比7百万円減少（同比△1.37%）の5億17百万円となり、2期連続の減少となりました。

また、自己資本比率は、9.79%と前期比0.24ポイントの上昇となりました。

(2) 主要科目残高の状況

預 金	3,774 億円	(前期比 25 億円減少)
貸出金	1,538 億円	(前期比 31 億円増加)

預金は、給与振込先口座・年金受給口座の獲得などの取引基盤の拡充に努めたことにより、個人の流動性預金は増加しましたが、定期性預金が相続による流出や低金利の長期化等により減少した結果、期末残高は 3,774 億円（前期比△0.66%）となりました。

貸出金は、設備投資や不動産関連融資への取組みによる事業性融資の増加や、住宅ローン、個人ローン、地公体向け貸出の増加により、期末残高は 1,538 億円（前期比+2.07%）となりました。

(3) 金融再生法開示債権の状況

不良債権総額	119 億円	(前期比 2 億円減少)
不良債権比率	7.77%	(前期比 0.32 ポイント低下)

金融再生法における不良債権額については、前期比 2 億円減少（同比△1.98%）の 122 億円となりました。また、不良債権比率（金融再生法ベース）は、前期比 0.32 ポイント低下の 7.77%となりました。

(4) 2024 年度（第 81 期）における収益見込み

経常収益	42 億円	(前期比 3 億円減少)
当期純利益	5 億円	(前期比 1 億円減少)

2024 年度につきましては、預金利息の増加やシステム関連等への設備投資による経費の増加を見込み、経常収益は 42 億円、当期純利益は 5 億円と減収減益を見込んでいます。

以 上

[お問合せ先]：企画・運用部（大森、中村、泉） TEL：0848-62-7143